

# 千臨技臨床化学検査 2 次サーベイ実施の手引（平成 26 年度）

一般社団法人 千葉県臨床検査技師会  
臨床化学検査研究班

## 2 次サーベイの要点

要点 1. 1 次サーベイで目標許容範囲を外れた項目（HbA1c を除く）が対象となります。

要点 2. 1 次サーベイと同様、日臨技サーベイシステムを導入しています。

そのため結果入力は web 上の専用サイトで行います。

結果入力は、メイン機、サブ機、ドライの 3 種類に分かれます。

(注) ドライケミストリーは自施設においてサブ機として使用の場合も、結果を含めすべてドライ入力欄へ入力ください。また、ドライケミストリーの測定は補正係数はずした状態で行い報告してください。

※本手引書 Page4『入力方法と注意点』の『D.ドライケミストリー』を参照ください。

要点 3. 2 次サーベイは自施設における精度管理の改善を確認することを目的に実施しているため、評価ならびに報告書の発行はありませんのでご承知ください。

## サーベイ概要

試料発送日：12月9日（火）

### 1. 試料と対象項目

#### 【試料】

No.1（紫色）・No.2（茶色）：各 1 本 プール血清（液状凍結品）

## 【対象項目】

試料 No.	1	2
試料内容	液状凍結試料	液状凍結試料
測定項目		
GLU	●	●
T-BIL	●	●
Na	●	●
K	●	●
Cl	●	●
Ca	●	●
IP	●	●
Fe	●	●
TP	●	●
ALB	●	●
UA	●	●
UN	●	●
CRE	●	●
TC	●	●
TG	●	●
HDL	●	●
LDL	●	●
CRP	●	●
AST	●	●
ALT	●	●
ALP	●	●
LD	●	●
AMY	●	●
CK	●	●
GGT	●	●
CHE	●	●
HbA1c	対象外	対象外

## 2. 試料の取り扱いと測定方法

試料は感染の危険性があるものとし、患者検体と同様に取り扱いには十分注意してください。

**測定は極力、試料到着当日中に測定してください。**（試料の変性が起こってしまうため。）

当日中に測定できない場合は試料を低温冷凍庫（-30℃以下）に保存し**2日以内**に測定してください。

### 【試料 No.1～2】

- ・ No.1～2 は使用時、流水にて速やかに解凍し、ゆっくりと**40回以上転倒混和**を行い直ちに測定
- ・ 融解後直ちに測定できない場合は**4℃保存し、1時間以内**に測定
- ・ 繰り返しの凍結融解は避ける
- ・ No.1, 2 の測定対象は HbA1c を除く項目

**※ 測定対象項目については上表を参照してください。**

### 3. 測定結果および各種コードの入力

測定結果および各種コードの入力は本手引書 Page4 『入力方法と注意点』を参照してください。

### 4. 結果の締め切り

締め切り : **12月19日 (金)**

締め切り日までに web の専用サイトにて入力を済ませてください。期日を過ぎるとサイトが閉鎖し入力が出来なくなります。

### 質問および問い合わせ先

一般社団法人 千葉県臨床検査技師会 臨床化学検査研究班

Mail : [chiba.kagakuhan@gmail.com](mailto:chiba.kagakuhan@gmail.com)

# 入力方法と注意点

入力はすべて web の専用サイトにておこないます。

- A. 測定機器** 測定機器は、機器一括設定「測定装置マスター一覧. PDF」を参照してください。
- B. 検量方法** 検量方法は、検量一括設定「検量マスター一覧. PDF」を参照してください。
- 該当する選択肢がない場合は、必ず“99：その他”を選択してください。
  - “溶媒ベース水溶性標準液”は、基材に水または有機溶媒を使用している標準液が該当します。
  - “血清ベース標準液”は、基材として血清蛋白溶液・アルブミン溶液を使用している標準液が該当、またグリセロール、ポリエチレングリコール等で粘性を血清に近似させた標準液を使用している場合も、血清ベース標準液を選択してください。
  - 標準液を表示値で使用しない場合は、標準液の概念から外れてしまいます。このような場合は、“99：その他”を選択してください。
  - 酵素項目における酵素キャリブレーションについても、製造販売会社指定のキャリブレーションでない場合や、表示値以外で使用している場合は、酵素キャリブレーションの概念から外れてしまうため、“99：その他”を選択してください。
- C. 測定試薬** 測定試薬は、試薬一括設定「試薬マスター一覧. PDF」を参照し、選択してください。測定試薬を選択すると連動して測定方法が表示されます。
- D. ドライケミストリー** 補正係数を使用している項目は、補正係数をはずした状態で試料を測定し、報告してください。その際、必ず補正係数入力欄に数値を入力してください。
- ※ 富士ドライケムの場合、「コントロールモード」での測定により補正係数がはずれた状態で測定できます。わからない場合は直接メーカーへ問い合わせてください。

## 項目別注意事項

- Na,K,Cl** 日立および東芝の ISE キャリブレーションはアルブミン溶液ですので試薬検量は“21：血清ベース標準液”を選択してください。
- Ca** 報告単位は mg/dL です。その他の単位を使用している施設は、報告値および基準範囲を mg/dL に換算してから報告してください。
- Alb** 電気泳動法のように標準物質がない場合は検量コード“99：その他”を選択、報告単位は g/dL です。電気泳動法の場合は自施設で測定した総蛋白濃度よりアルブミン濃度を求めてください。
- LDL-C** 計算によって算出している場合は“98：計算 (F 式) によって算出”を選択し、測定装置は“ZZZ999：その他の医用検体検査装置”および試薬検量は“99：その他”を選択してください。ただし計算による算出は評価対象外とします。

## その他注意事項

- 和光純薬のマルチキャリブレーションを使用している場合は、試薬検量は“21：血清ベース標準液”です。
- 検量コードの市販管理血清は、校正に用いることができる管理血清である場合に選択してください。